

日本学術会議 科学者委員会 学術体制分科会(第6回)

議事要旨

日時:平成31年4月26日(金) 10:00-12:30

会場:日本学術会議 6-C(1)会議室(6階)

出席者:佐藤委員, 藤井(孝)委員, 岡崎委員, 荏部委員, 高村委員, 和田委員, 小安委員, 澁澤委員, 松田委員, 梶田委員, 高橋委員, 藤井(良)委員, 菱田委員, 岩崎委員, 盛山委員, 三成委員, 竹中委員

事務局: 犬塚参事官ほか

欠席:武田委員, 橋本委員, 五神委員, 井野瀬委員

議題:

- 1)前回議事要旨の確認
- 2)第6期科学技術基本計画に向けた提言の準備について
- 3)その他

資料1 前回議事要旨(案)

資料2 「今後の分科会審議(論点整理)に向けたアンケート(まとめ)」(前回2018年12月11日分科会資料)(非公開)

資料3 アンケート結果全体概要(非公開)

資料4 「大学の現状とそのあり方について:第三部会における議論のまとめ」(非公開)

資料5 CSTI 有識者懇談会からの基礎研究力強化に向けた意見照会への会員等の回答

資料6 提言に向けた作業項目案(非公開)

参考1 設置要綱

参考2 委員名簿

参考3 『第5期科学技術基本計画のあり方に関する提言』(2015年2月27日)

参考4 CSTI「次期科学技術基本計画に向けて」

議事:

- 1)前回の分科会およびメール審議で承認された新委員の紹介と分科会のこれまでの審議経過の説明

- 2)前回議事要旨の確認

前回議事要旨(案)(資料1)が修正なく承認された。

- 3)今後のスケジュールについて

佐藤委員長より, 今後の分科会審議のスケジュールについて次のような説明と提案があり, 承

認された。

- * 次の第6期科学技術基本計画は2021年度～2025年度の5年間を対象とする計画となる。今期(第5期)の策定スケジュールを参考にすると、2020年12月に総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)の答申、2021年1月に閣議決定、2021年4月に施行される見込みであり、すでに本年4月18日、総理大臣よりCSTI議長に基本計画策定に関する諮問が正式になされている。
- * 第6期計画の策定作業に科学者コミュニティの意見を効果的に反映させるため、CSTIの議論において基本的方向性が固まる前に、なるべく早く本分科会の提言を出すことにしたい。そのため遅くとも本年7月末までに本分科会の提言をまとめることとしたいが、それでも日本学術会議内での査読と幹事会承認の手続きに1ヶ月程度を必要とすることから、発表は9月になる。そこで、次のようなプロセスを採ることにしたい。
 - ①CSTIの有識者会合に、山極会長の他、日本学術会議の各部から数名の会員が参加すると予想されるので、これら参加者が、必要に応じて、分科会での議論を踏まえた形での個人的意見として有識者会合で発言し、分科会の議論をCSTIでの議論に反映させる。その場合、分科会の議事録に基づいて発言することができる。
 - ②本年7月末までに分科会の提言をまとめ、8月29日の幹事会で承認を得ることをめざす。

4) 今後の審議の進め方について

佐藤委員長より審議の進め方について次のような提案があり、下記のような質疑応答と議論を経て承認された。

- * 「提言に向けた作業項目案(たたき台)」(資料6)(非公開)に示した6つの項目(6は「その他」)について、それぞれ第一部、第二部、第三部から少なくとも各1名の委員が参加するWGを組織する。
- * 各WGに1名の責任者を置く。
- * 各WGで5月末の次回分科会までに、①その項目に関連してどのような課題があるか、②その課題に関するこれまでの政策のレビュー、③望ましい政策、④その政策の実行可能性と期待される効果等について検討し、5月末の分科会に持ち寄って議論する。

質疑応答

- * (Q)6項目の1つ「科学・技術政策(学術政策)の基本的方向性【総論的視点】」は基本計画で細かい項目に区分される可能性があるので、審議のうえ項目の再編成をする可能性はないか。
 - (A)可能性はある。各論は具体的内容に踏み込んだ提言としたいが、一方で、学術の将来に関する原則を総論的に示したいと考えている。日本の学術を次の世代に引き継ぐためにも、学術が本来持つ意義や魅力も積極的に発信したい。
- * (Q)CSTIではすでに10個程度の項目を検討している(参考4)。これと提案された6つ

の項目との関係を説明して欲しい。

(A) CISTI の検討項目に沿って審議するのも一案だが、それとは別に学術の視点から項目を設定した。ただし WG, 分科会での議論で CISTI 等の問題意識を考慮することは重要。大学の現状とあり方に関する第三部の議論(資料4, 非公開), これまでの分科会の議事録も参照して欲しい。参考4の項目と提案した 6 項目の対応表を委員長が作成。

* (Q) 昨日の総会でも evidence が話題となった。WG, 分科会での審議に必要なデータ, 資料について事務局がサポートしてくれるか。

(A) サポートする。必要なデータ, 資料を教えてほしい。

* (Q) 社会の課題に学術がどのように対応できているかについて提言の中で述べる必要がある。

(A) 総論の中で述べる。

* その他の論点

① データについて

CISTI や政府の政策文書が用いるデータについて共有するとともに, 批判的な検討も必要。

② 政策レビュー

- ・ 5 期基本計画には望ましい政策が盛り込まれているが, 部分的, つまみ食いの実行されたこと等の理由から期待された効果を生まず, 逆に負の影響を与えている場合がある(財源の多様化といいながら運営費の削減等, 若手研究者育成といいながらプロジェクト経費による任期付雇用の増加, 人材流動化促進といいながら職場が変わると不利になる給与体系、等)。
- ・ 5 期基本計画の評価をそれぞれの項目の中で行う必要。
- ・ より広く, 政策と効果の関係, 政策が期待された効果を生まなかった原因等の検証が必要。日本の政策の問題点は, 実行された政策がレビューされることなく, 新しい政策が次々と実施されていくこと。この点についても問題提起をすべき。
- ・ 現在のところ政策レビューは政策当局が行っているが, 学術の視点からも行う必要。ドイツで行われているような国際的レビューも必要。

③ 科学技術と学術, 人文・社会科学との関係

- ・ CISTI には科学技術は社会に役に立つ道具で, 人文・社会科学は触媒的な役割という発想。
- ・ 全世界的に多くの深刻な社会的問題がある中で人文・社会科学を含む学術がその解決にどう貢献するかという視点が重要。
- ・ 人文・社会科学に「計画」を設定することは適切か。

以上